



NPO法人  
環境修復保全機構

# 立ち上がる カンボジアの先生たち

NPO法人環境修復保全機構による  
ユニークなプロジェクトがカンボジアで進行中だ。  
小学校の先生から地域が抱える問題の解決策を募るといふもの。  
条件は一つ。学校菜園を利用したアイデアだ。



小学校の菜園。有機農法で空心菜やキャベツなどの野菜が栽培されている



「地域問題検討ワークショップ」に参加した小学校の先生たち。時間の経過とともに、活発な議論が交わられるようになった

環境修復保全機構の活動の様子や団体の詳細はホームページでご覧いただけます。  
<http://www.erecon.jp/>

## いわば、気付きのプロジェクト

NPO法人環境修復保全機構の石山千佳さんたちは、カンボジアの小学校で、不思議な光景を目撃した。

「貧しい身なりをした子どもたちが窓の外にたくさん集まって教室の中をのぞいているんです。この子どもたちはどうしたのだろう？なぜ中に入らないのだろう？その数の多さに私たちは驚かされました」

聞いてみると、彼らは授業料を払えず、学校に通えない子どもたちだということ。だから、教室に入れない。学校にあるトイレも借りられない。

「ショックだったのは、そんな子どもたちを先生たちはあえて気にする風もなく授業を進めていることでした。その現状に先生自らが対処できないことに疑問を感じ、解決に向けて先生たちが立ち上がるきっかけ作りができないかと思いました」  
環境修復保全機構は、有機農法の普及を

なのか、地域の人々自らが考え、自分たちの問題として気付いてもらおうというプロジェクトなのです」  
**学校菜園を地域のために  
上手に使おう**

プロジェクトは、地域の問題を話し合うワークショップの開催から始まった。集まったのは、小学校の先生たちだ。その数は延べ60人になる。  
1975年から4年間続いたポル・ポト政権の時代に教育者は虐殺の対象とされた。現在、教育現場に立っている先生のほとんどが経験不足だ。しかも、学校間の連携はほとんどない。だから、集まった先生たちが地域の状況について話し合う

のは、カンボジアではとても画期的なことなのだ。

「話してみると、先生たちは意外と子どもたちの家庭の事情に精通していることが分かります。学校に行けない子の存在やその子どもたちの事情についても把握しています。しかし、積極的に解決しようとする意欲は少なく、外部からの援助に頼り、自分が地域でできることはないか、なかなか



考えようとしません」。ワークショップに立ち会った石山さんの感想だ。

プロジェクトは、問題解決のためのアイデアを先生たちが自ら企画立案することを目指している。学校菜園を使った環境教育プログラムを募り、優秀プログラムを表彰。その実施をサポートしているのだ。  
すでに、ワークショップでこんなアイデアを語る先生もいる。小学生が村人から農作業を教わり、逆に小学生は村にまだ多く存在する読み書きのできない人に文字を教える。結果、菜園が貴重なコミュニケーションの場となる。

さらに、学校で有機農法を学んだわが子から刺激を受け、堆肥づくりや防虫液づくりに挑戦する親が現れてくるなど、子から親への情報の流れも徐々に出てきている。これから、学校菜園を舞台にしたさらに多彩なアイデアが出てくるはず。その中には、地元を根を下ろした先生だからこそ考えられるアイデアもあるだろう。最終的にはすべてのアイデアが「地域問題の解決に向けたプログラム集」としてまとめられ、現地の人々が主体となって問題解決に当たろうとする際の指図書となるはずだ。JICA基金は、この一連の流れの運営

費、特に優秀プログラムの実施費用に充てられる予定だ。

環境修復保全機構は、三原さんと事務局長の上野貴司さんによって2000年に設立された。タイを主なフィールドとして調査研究を行っていた三原さんたちの設立当時の思いはこうだ。  
「研究の成果を学術論文にまとめ、学会で発表する。これだけでは自分たちのために途上国を利用しているだけではないか。研究で得た成果をなんとか現地にフィードバックしたい」

その思いが有機農法を軸とする環境教育につながった。今、その思いはさらに深化し、環境修復保全機構の活動は幅を広げている。そして、地域の先生たちのココロを触発している。  
「この事業は、何か形あるものを地域に提供するものではありません。今、何が問題が目的だ。  
東京農業大学で教えながら同機構の代表理事を務める三原真智人さんが語る。  
「この事業は、何か形あるものを地域に提供するものではありません。今、何が問題が目的だ。  
東京農業大学で教えながら同機構の代表理事を務める三原真智人さんが語る。  
「この事業は、何か形あるものを地域に提供するものではありません。今、何が問題が目的だ。  
東京農業大学で教えながら同機構の代表理事を務める三原真智人さんが語る。」



(上)外から教室の中をのぞき込むのは学校へ通えない子どもたち。その数の多さに環境修復保全機構のスタッフは衝撃を受けた  
(下)環境保全に関する絵画コンテストも実施された

### あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

#### 寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

#### 寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。  
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>